

古典文法トレーニング 長文課題 品詞分解と現代語訳

大問二四（出典：『撰集抄』）

◎品詞分解（名詞は基本的に非表示。非活用語は基本的に初出のみ。同色の助詞は同内容を示す。）

昔、殿上格助(体修)の男ども、花見マ上・未意志・終格助むとて東山格助(体修)におはしたりける格助(偶怨)に、にはかに心なき雨ク・体の降りて、人々逃げ騒ぎ給へりけるに、実方ラ下二・用カ四・用尊(作男ども)の中将、いと騒がず、木のもとタ四・用ラ四・用に立ち寄りて、

桜狩り雨は降り来ぬ同じくは濡るとも花の陰ラ四・未意志・終に宿らん

と詠みて、隠れ給はざりければ、花より漏り下る雨副にさながら濡れて、装束絞りかね侍り。このこと、

興あることに人々思ひあはれけり。またの日、斉信の大納言、主上ラ変・体クに、「かかるおもしろきことの侍り

し」と奏せらるるに、行成、その時、蔵人頭断定・用尊(作行成)にておはしけるが、「歌はおもしろし。実方は烏漕係助ナリ・終なり」

とのたまひてけり。この言葉を実方漏れ聞き給ひて、深く恨みを含み給ふとぞ聞こえける。

◎現代語訳（⇒ステップアップノート30 古典文法トレーニング参照）